

こがねい

1994.3. 第2号

放射能測定室だより

発行：小金井市放射能測定器運営連絡協議会

連絡先：小金井市梶野町1-3-17 大塚荘

Tel. 0422-54-0134 (荒木)

一雨ごとに春になる頃、皆様お元気でお過ごしのことと思います。

私供、小金井放射能測定器運営連絡協議会も、今年七月で、まる五年になります。この間、市民からの依頼食品、学校給食、保育園給食等の測定を継続してまいりました。

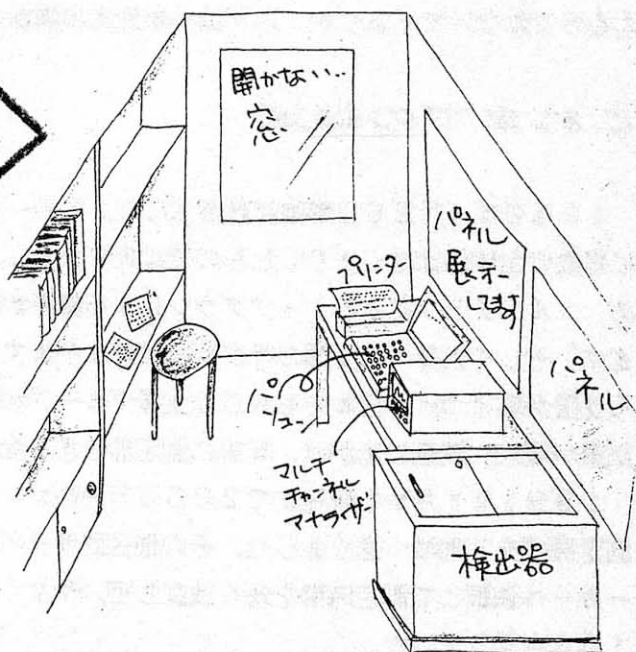
昨年、1994年、上之原会館の改修工事にともない、新しく測定室ができました。測定室は同館の一階奥にあります。

私供も、新たな気持ちで、またチェルノブイリ事故のようなことが起こらないことを願いつつ、測定を続けてまいりたいと思っております。

気になる食品がありましたらぜひ調べてみてください。

測定室は
こんなかんじです
約3畳の部屋の
奥3分の2程の
スペースです。

見学希望の方は
ご連絡ください。



8年後のチェルノブイリ

—汚染風下地区の人々のくらし—

小泉好延さん
講演会
(東京大学アイソトープ総合センター研究員/
チェルノブイリに放射能測定器を送る会)

2月25日(土)午後2時~4時
上之原会館

講演会の報告

私たちは、日頃小金井市民の方々から食品の放射能測定を依頼を受けて測定をするという活動をしながら、放射能問題に取り組むきっかけになったチェルノブイリ原発事故で汚染されてしまった現地の方々のために少しでも支援になればとチェルノブイリに放射能測定器を送るという運動をしているグループへのカンパ活動をしてきました。

日本にはこうした現地支援活動をしているグループがいくつかあるのですが、その中の一つである『チェルノブイリに放射能測定器を送る会』のメンバーであり、東京大学アイソトープ総合センターの研究員をしていらっしゃる小泉好延氏を講師にお迎えし、現地の様子など交えながら講演をしていただきました。

折しも去る1月17日早朝に兵庫県で起きた阪神大震災の約1か月後ということもあって危機管理のあり方などが私たちの最大の関心事であったため、チェルノブイリの事故が約9年前の過去の事故というより何か身近な問題を感じられたのは、来ていた人全員に言えるのではないのでしょうか。以下は小泉先生の講演の概要です。

これまでの経過

1986年4月26日事故は起きました。86~89年は現地での情報も希薄で、今だに事故の全体像ははっきりしたものではありません。1989年政治状況の変化が見え始め、コルバチョフによるトップダウンによる変革が始まり、情報公開の方向へと動き出します。そして世界への支援の呼びかけが始まります。1990年になると、ヨーロッパから支援が駆けつけ、日本でもNGO支援グループが結成されます。この年の夏、放射能測定室が現地へ調査に出かけ、年末に測定器を送る会が結成されました。

1991年1月から現在まで2000万円のカンパを集め、500万円位のシステムの測定機械を3地域へ送りました。その他住民サイドに立った測定器を送りたいと思い、メーカーへ依頼して測定時間を短く改良し使いやすくした“たんぼぼ”を開発してもらい、100台送りました。

どんな支援をするのか

私たちの支援が現地の人々にどの程度役に立っているのか、どんな支援をしたらいいのかということについて、大分議論をしてみました。正直に言って現実力強いパワーになっているとは言い切れないものがあります。故松岡信夫さんの言葉を借りると、「事故から7年経って現地の人々は放射能への不安、経済への不安の中におり、誰が救ってくれるのか一苦悩の中に暮らしています。支えるという言葉の意味は、第1に、遠くにいても忘れないでいる人がいるという心の支えということであり、第2には自分で測定し、自主的に判断するきっかけにしてくれれば、という程度のことであり、現実困っていることへの救いの道にはなり得ないのです。」

私たちは被害特定地域を決め、問題点を住民の側からの一緒に議論をするという姿勢を決め、送る会の活動をすることにしました。チェルノブイリ原発事故では被害地域は、原発10Km圏内の中心地区とそこから200Km離れたゴメリ州など北東部の大きく2か所に別れます。北東部にはチェチェルスク、クリチェフ、クラスノポーリエ、スラブゴロド、コルガなどの町があり、平面地域で長い間戦地になったという歴史を持つ地域です。森林を開墾しながら開拓していった肥沃地帯で、牧場の牛やそのミルクは今だに強い濃度を示し、今後何年も続くと思われ、河川や湖の汚染も目立ちます。

チェチェルスク地区を中心に、主に住民に近いところで仕事をする行政の人達へ測定器を送ってきました。汚染地域に住んでいる被害者が担当者になっているので、家族を含め彼ら自身が被害者で実態をよく知っており、住民からの要請と上部との軋轢に苦しみながら、しかも事故直後のことなどについての行政の守秘義務に悩んでおります。

1992年に訪問した時は、移住問題が起きており、3万人の人口が1万9千人へと減少しており、地区として成り立つかどうかの瀬戸際に立たされていました。

その年の夏に来日したチェチェルスクの子供たちの体内汚染検査の結果や、現地での検査結果から見ると、汚染の強い所での暮らしを何年か続けていると、日本に1か月位居ても濃度が下がることはなく、現地でも都市部のように食料を外から取り入れる所は汚染が少なく、農家のように汚染されたものを食べなくてはいけない生活の人々は汚染が高いことがわかります。食料を測ることの重大さが感じられます。

これから自分たちの取っているデータを住民へ知らせるような活動の提案をし、10年目にむけて『データ集』作りを支援していきたいと思っています。(学習部)

1993年度 測定結果一覧表

(1993.4~1994.3)

測定品目	概	原産国	測定結果 (ベクレル/kg)
小麦粉 (マカロニ・唐揚げ素麺)	3	日本	0
(スパゲッティ・素麺)	2	イタリア・日本	★検出限界値以下
大麦	1	日本	★検出限界値以下
オートミール	1	日本	0
丸麦	1	日本	0
香辛料 (パセリ粉末・バジリコ ローリエ・山椒)	5	不明・ギリシャ 中国	0
(オレガノ)	1	不明	☆0.51 (セシウム134)
*水道水	3	市内	0
*薬物 (サラダ菜・かき葉)	3	日本・市内	0
乳製品 (牛乳・粉末乳酸飲料 粉ミルク・ナチュラルチーズ)	8	日本・ロシア	0
(スキムミルク)	2	日本	★検出限界値以下
きのこ (干し椎茸)	1	日本	0.11 (セシウム137)
(干し椎茸)	1	日本	☆13.40 (セシウム137)
(干し椎茸)	1	日本	★検出限界値以下
• (きくらげ・しめじ 干し椎茸)	5	中国・日本	0
茶 (中国茶・ウーロン茶)	2	中国	0
(暴暴茶)	1	中国	★検出限界値以下
魚類 (あじ干物)	1	不明	☆5.46 (セシウム134)
(さば文化干し)	1	不明	0
(カニ缶詰)	1	ロシア	★検出限界値以下
切り干し大根	1	日本	0
エビオス	1	日本	0
春雨	1	中国	0
柿ピーナツ	1	中国・タイ	0
いり胡麻	1	日本	0
ウォッカ	2	ポーランド・ロシア	0
チョコレート	1	日本	0
大豆	1	日本	0
メイプルシロップ	1	カナダ	0

★この測定器では放射能の有無を明言できないということ (0に近いが0とはいえない)

*4月のロシア・トムスクの核施設事故の影響調査のため臨時に測定したものを。

☆通常の6時間測定では誤差値が大きいため、48時間以上測定して、より正確な値を得たもの。

計 54件 (保育園・学校給食食材として、この他に29件測定しました。)

(セシウム134 はチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能、セシウム137 は過去の核実験により地表に蓄積されている放射能です。)

== '94年度の測定結果は、秋の『消費生活展』で発表します ==

検査体制の網の目くぐり都内のレストランに登場した 830ベクレル/kgのフランス産キノコ

東京都衛生局は昨年12月26日、輸入食品の放射能検査で、フランスから輸入された生のキノコ「カノシタ」から、厚生省が定める放射能濃度の暫定限度（セシウム134とセシウム137の合計で1kgあたり370ベクレル）を2倍以上上回る830ベクレルを検出したと発表した。

キノコは都内の輸入業者が12月7日、フランス料理用として24kgを輸入したもので、すでにすべて都内のレストランなどに卸されていた。

フランスから輸入されるキノコについては現在も全量検査となっているはずなので、厚生省に問い合わせたところ、今回の「カノシタ」

にはフランスの公的機関による検査結果「50ベクレル/kg以下」が添付されていたので検査なしで通ってしまったらしい。東京都の検査結果を受け、大使館を通して調査中で、現在回答待ちとのことだ。

厚生省では、増大する輸入食品検査の簡便化に対応し、1982年から公的機関制度を採用している。輸入食品に公的機関による検査データが添付されていれば、そのデータを信頼してフリーパスとなるのだ。93年には輸入件数84万8,319件中、公的機関制度によるものは19,242件で、全体の約2.3%にあたる。

フランスの公的機関による検査結果が事実と違っていたことは大きな問題で、公的機関制度そのものの見直しも必要となってくる。

1987年3月～1994年3月までの検査結果 (東京都衛生局)

食品の種類	品目数	主な産出国	濃度区分 (ベクレル/kg)						
			0～50	51～100	101～150	151～200	201～250	251～370	371以上
ナッツ類及び同加工品	141	スペイン、フランス、イタリア、旧ソ連等	139	2					
香辛料	341	フランス、スイス、ギリシャ等	315	14	8	3	1		
ジャム	109	旧ソ連、フランス、スイス等	107	2					
食肉及び食肉製品	537	フランス、ルーマニア、スイス、スウェーデン等	534	1		1			1
魚介類及び同加工品	580	フランス、旧ソ連、アイスランド等	580						
菓子	129	旧ソ連、スイス、ドイツ、フィンランド等	129						
ワイン	158	旧ソ連、ユーゴスラビア、ギリシャ等	158						
穀類及び同加工品	400	旧ソ連、チェコスロバキア、イギリス等	400						
野菜及び同加工品	493	トルコ、イタリア、フランス等	484	5	2		2		
チーズ及び乳製品	201	フランス、スイス、オランダ等	201						
野菜加工品 (含ホップ)	206	チェコスロバキア、ドイツ、フランス等	194	9		3			
はちみつ	89	フランス、旧ソ連、ハンガリー等	87	1		1			
果実及び同加工品	380	スペイン、フランス、イタリア等	380						
その他	328	フィンランド、スウェーデン、アイスランド等	328						
合計	4092		4036	34	10	8	3	0	1

今回のカノシタについては、たまたま東京都の検査にひっきり明ら became したが、93年1月15日から検査体制が大幅に緩和されたこともあわせて、検査体制の網の目をくぐってしまうものも少なくはないだろう。徹底的な究明と検査体制の強化を望みたい。

(渡辺美紀子)

東京都では、チェルノブイリ事故後1987年から都内に流通する輸入食品について放射能検査を実施しており、89年12月にはスウェーデン産のトナカイ背肉から暫定限度を超える380ベクレル/kgを検出している。50ベクレル/kgを超えたものは、フランス産キノコ、スウェーデン産トナカイ肉のほか、トルコ産セイジパウダー、スペイン産パブリカパウダー、ギリシア産セイジ、ドイツ産ハーブ。

市民による監視体制が増え重要になってきましたね...

▶測定依頼をお寄せください!!

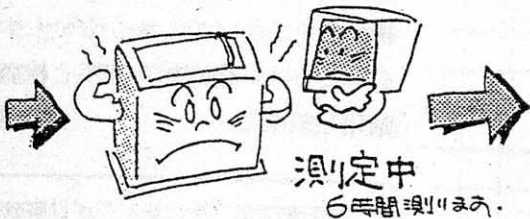
申し込み方法等は ですよ。よろしく

お願いします!!

はあ、実際に測定にかかわってみたいか。
 月に協議会に参加したい方。いつでも募集し
 いますのでご連絡ください。大歓迎です。

はかってほしい時は

- 1** 市役所経済課にお問い合わせの
 電話番号を教えてください。
 0423-83-1111
 内線279
 (経済課)
- 2** 測定日の指定が
 あります。
 OROB
 に合わせて
 ください
- 3** 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を
 上)原倉館 に持参し、協賛会現役者に
 わたします。(※検体は細かく、たいておくこと)
- 4** 受付票に
 必要事項を記入。
- 5** 夕方、検体を引き取りに来てください。
 測定結果を記入した通知書をお受け取り
 ください



※ 370ml以上が検出された場合は別途、
 希釈測定を行ないますので、ご持参
 いただいた検体は、返却できません

★ 200ccの容量が必要です。
 (スナック袋では150gくらい、
 生したけでは210gくらい)など
 量によって容量が異なる4種類ので
 協賛会にお問い合わせください。

★ 食品に限ります。
 ★ 無料です。